

1) 誰もが立ち寄りやすい市民に開かれた庁舎

① バス路線を含む既存の道路交通網を活かした交通の拠点として建設地内での一体的な整備

・新庁舎の敷地は伊佐市の主要施設の中心に位置し、バス路線の中心部にあたり、地域及び交通の要所にあたります。町と町をつなげたかつての『大口筋』のように人を『つなぎ』、交流を通して人が『あつまり』、伊佐市の未来を『つむぐ』まちづくりを新庁舎建設を通して目指します。



・既存のバス路線を活かし、計画地の南側にバス・タクシー乗場をまとめて整備し、新庁舎と大口ふれあいセンターの両方へスムーズにアクセスできるよう工夫します。

② 建設地内の既存公共施設や建設地周辺私有地との一体的、複合的利用を図ることによる、賑わいの創出や地域活性化

計画地内及び隣接地には、大口ふれあいセンター、スクエア広場、大口元気こころ館があり、新庁舎と既存施設を有効的につなぐことで、地域にひらかれ誰でも立ち寄りやすい新庁舎になります。人が集まり地域とつながることで新庁舎を中心とした賑わいを創出し、まちづくりの拠点として地域活性化に寄与します。

- ・敷地の南北軸に沿って緑道を整備し、計画周辺地に一体的な景観形成を図ります。通りには水路もあり、歩行者にやさしい水と緑の豊かなプロムナードになります。
- ・新庁舎、大口ふれあいセンターの1階部分は市民に開放したスペースとし、公園と一体的に活用できるよう計画します。
- ・大口ふれあいセンターの1階を活性化するために、エントランス部分を更新し、『カフェ』を計画します。庇の下はベンチなどがありバスの待合時などにも活用できます。
- ・大口ふれあいセンターと公園との一体的活用を促し、多様な市民活動を発信するために、公園に面して、『市民活動スペース』計画します。
- ・平置き駐車場は、芝ブロックなどで整備することでイベント時などは公園と一体的に活用することができます。
- ・敷地の周囲の市有地からのアクセスを考慮し、北と南をつなぐ動線を確保し、地域と庁舎をつなぐよう計画します。通路には庇を設けることで、公園で遊ぶ際に休憩できるスペースとしても利用できます。
- ・車両出入口を西側道路に計画することで、明確な歩車分離を行い利用者の安全に配慮します。
- ・新庁舎と大口ふれあいセンターを低層のファサードとして一体的にデザインすることで、安心感と落ち着きのある景観を形成します。

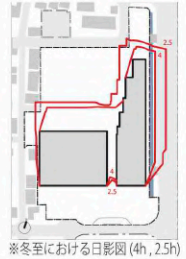


大口ふれあいセンター改修の方針

- ・主要構造部の過半を扱わないことを基本方針とし、**逆及の生じない合理的な改修計画**とします。
- ・高断熱ガラスの採用や日射遮蔽ルーバーの設置など温熱環境の改善を視野に入れ、**省エネルギーに配慮**します。
- ・アトリウムを再編し、図書館の一部やカフェを併設することで**誰もが気軽に立ち寄れる施設**とします。
- ・市民活動スペースや展示ギャラリーを再編し、**様々な市民の活動をサポート**します。

近隣へ配慮した建物ボリューム

- ・庁舎の階数を4階の低層とし、4階部分をセットバックすることで、**西側近隣及び公園への日影を抑えた計画**としています。
- ・南側は3層とし、公園に対して**圧迫のないボリューム**としています。



③ 地域産材の活用と地域産業の活性化

- ・ヒノキを内外装に活用し、**地域産業の活性化**を図ります。
- ・特に市民ホールや、大口ふれあいセンターのアトリウムなどの市民にひらかれたスペースで**積極的に活用**することで、**地域の特徴を市民や来庁者に対してアピール**できます。
- ・仕上げ材、カウンター家具などの什器、外部の日射遮蔽ルーバーなど施設の様々な場所で活用します。



④ 市民参加型の新庁舎づくり

- ・新庁舎の建設にあたり大口ふれあいセンターを一体的に整備し、市民活動スペースや会議室、ミーティングスペースなどを新たに計画することで**時間外や休日**などにも市民の皆様が**効果的に施設を活用**できるよう工夫します。
- ・新庁舎及び大口ふれあいセンター内に市民が**情報を発信、発見の双方**ができる場所を計画します。市民が施設を活用し育むことで、**市民参加型のまちづくり**に寄与できる施設となることを目指します。